

河川基金助成事業

大河津分水通水100周年 多組織連携の展開

助成番号：2021 - 6111 - 017

Love River Net

代表 樋口 勲

2021 年度

1. 事業概要

1.1. 事業の目的

日本を代表する放水路である大河津分水は建設経緯、建設効果から公共事業の原点である。しかしながら、大河津分水は人々にとって当たり前の存在となっている。そのような中、2 年後の 2022 年に大河津分水は「通水 100 周年」を迎える。多様な人々が多様な方法で通水 100 年を祝うべく、地域団体や自治体、教育機関、企業等の多組織の主体的な関わりの中で大河津分水啓発を通じた川づくりを実践する。

1.2. 事業の概要

ウイルス感染症拡大防止の観点からやむを得ず変更した事業もあったが、各組織と協議し可能な範囲の中で事業を実施した。一覧表を示す。

No.	概要及び当初計画	実施内容等	人数
1	学校や地域とのワークショップ 当初計画:3 回以上	新潟経営大学、子ども会、高校生、商店街等と 5 回実施	50 名
2	新しい啓発事業 当初計画:3 回以上	新幹線駅構内への大河津神社設置、ビッグスワンでのロゴマーク披露、堰のライトアップ、メッセージプロジェクトの 4 事業を実施	270 名
3	他組織主体事業 当初計画:3 回以上	大河津分水恵み弁当販売、プレミアムダイニング、漫画製作、フリーペーパー発行、記念酒ハレトケ発売、大河津分水ライブ配信、寺泊支所だより連載、広報つばめ連載など 8 事業がスタート	20 名
4	事業継続検討会 当初計画:3 回以上	つばめ若者会議、地域団体、新潟経営大学等と 3 回実施	51 名
5	収益 10 万円以上	トイカプセル売り上げ 4 万円、謝金 3 万円など 7 万円の収入	-
6	分水サミット 当初計画 1 回	資料館ガイドの恒常化、手作りポスター贈呈、学校間交流の実施	103 名

2. 活動内容と活動の成果

2.1. 学校や地域団体等と事業アイデアに関するワークショップ等

大河津分水の新しい魅力を引き出すため、また、他組織の主体的な関わりを目指すため、他組織とのワークショップを行い、大河津分水の魅力を発信する事業アイデアや意見交換を実施した。

2.1.1. 実績

No.	期日	対象
1	5月19日	新潟経営大学中島ゼミ(大河津分水の魅力発信)、11名
2	7月24日	長善館学習塾(燕市内小学校5・6年生による大河津分水紹介ビデオ制作)、13名
3	7月26日	新潟経営大学近藤ゼミ(大河津分水の利活用検討)、7名
4	7月28日	分水高校(大河津分水ライトアップ計画)、4名
5	9月28日	TSUBAME×ACTIONS(プレミアムダイニング全体会議)、15名

2.1.2. 実施状況

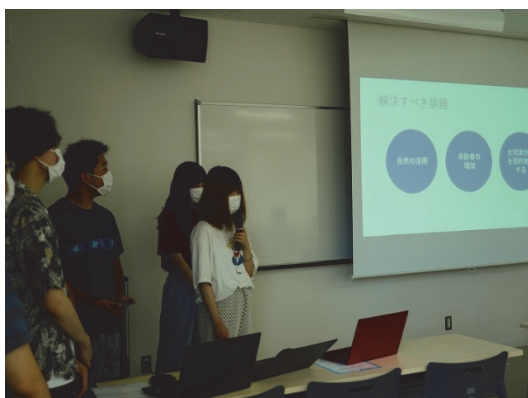
(1) 新潟経営大学中島ゼミ



(2) 長善館学習塾



(3) 新潟経営大学近藤ゼミ



(4) 分水高校



(5) TSUBAME×ACTIONS



2.1.3. 活動の成果

(1) 新潟経営大学中島ゼミ

アイデアとして提案された大河津分水にまつわる神社のパワーアップを図り、上越新幹線の燕三条駅構内、道の駅燕三条地場産業振興センターに設置できた。また、大河津分水の露出を増やすことが重要との意見が多くあり、令和4年度に向けてのぼり旗等の掲出物を作成する足掛かりとなった。

(2) 長善館学習塾

燕市内の小学校5・6年生11名が集まり話し合った結果、大河津分水を紹介するビデオ制作を実施することとなった。

(3) 新潟経営大学近藤ゼミ

大河津分水の魅力発信方法を学生が企画し、発表する機会を設けることができた。発表会には大河津分水の管理者である国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所からも出席いただきコメントをいただいた。

(4) 分水高校

大河津分水に「100」の文字をソーラーライトで浮かび上がらせる企画を提案いただいた。実際に幾つかのソーラーライトを試験設置してみたが、光量が足りずに実現には至らなかった。また、メッセージを発信する事の大切さが問われ、写真や動画等で頻回に発信する方法が模索された。

(5) TSUBAME×ACTIONS

燕市内の飲食や食材提供店舗で構成される団体「TSUBAME×ACTIONS」と連携し、大河津分水の恵みを料理にしたコース提供を検討した。実現までにはかなりのハードルがあったが、地元の自治体燕市や新潟県、大河津分水の管理者である国土交通省北陸地方整備局の協力を得て、プレミアムダイニングと称した取り組みを信濃川大河津資料館で実施するに至った。

2.2. 新しい啓発事業

令和4年度の大河津分水通水100周年に繋げる事業として大河津神社設置、ビッグスワンでのロゴマーク披露、堰のライトアップ、メッセージプロジェクトの4事業を実施した。

2.2.1. 実績

No.	期日等	内容
1	8月 9月	上越新幹線燕三条駅構内に大河津神社を建立。 道の駅燕三条地場産業振興センターに大河津神社を建立 ※設置したカプセルトイの売り上げから150名程
2	9月	ビッグスワン(ワールドカップ開催のサッカースタジアム)での100周年大型フラッグの紹介
3	11月	洗堰、可動堰、旧可動堰の3つの堰のライトアップを初めて実施 ※1日当たり20名程度の景物客あり×11日間=220名程
4	12月～	大河津分水への感謝のメッセージをフリップボード等で掲げSNS等で発信するメッセージプロジェクトを試行。

2.2.2. 実施状況

(1) 大河津神社建立



(2) ビッグスワン



(3) ライトアップ^o

[illegible]

旧可動堰
可動堰
ライトアップ

期間：11月13日(土)～23日(火・祝)
時間：16:30～21:00

 河川公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

(4) メッセージプロジェクト



2.2.3. 活動の成果

- ① 大河津神社、堰のライトアップに関しては反響が非常に大きくテレビ、新聞などで大々的に報じられたほか、実施期間を終え撤収する際には惜しむ声が各方面からあり、大河津分水の新しい魅力として位置づけることができた。
- ② 100 周年ロゴマークの掲出とメッセージプロジェクトの必要性は河川管理者である国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所に深く認識されることとなり、令和 4 年度の事業としてのぼり旗や缶バッジ等の配布、メッセージプロジェクトの SNS 発信に取り組むことが決定した。

2.3. 多組織主体事業

大河津分水恵み弁当販売、プレミアムダイニング、漫画製作、フリーペーパー発行、記念酒ハレトケ発売、大河津分水ライブ配信、寺泊支所だより連載、広報つばめ連載など 8 事業がスタートした。

2.3.1. 実績

No.	期日等	内容
1	10 月	新潟で取れる食材を大河津分水の恵みに見立てた弁当を地元企業が開発、販売した。パッケージには当団体が作成した大河津分水を紹介する説明文が印刷された。
2	10 月	世界に誇るものづくりの街である燕三条において、毎年開催される“工場の祭典”において大河津分水を紹介するライブ中継が実施され、当会が現地ガイドを担当し Youtube にて配信された。
3	11 月	信濃川大河津資料館 4 階展望室を 1 日限定のレストランに装飾し、大河津分水の恵みとしてとれた食材をフルコースで振る舞うイベントが開催された。会場設営、パンフレット原稿作成、併催された大河津分水インフラツアーのガイドを当団体が務めた。 参加人数: 20 名
4	1 月	大河津分水通水 100 周年を祝う記念酒“ハレトケ”が地元団体により発売され、大河津分水を学ぶ勉強会のガイドや意見交換等を当団体がサポートした。
5	3 月	大河津分水実現のために請願をくり返した田沢実入という人物の漫画化がスタートし、シナリオ作成等を当団体が担当した。また、田沢実入を讃えた石碑が建立されることとなり資料提供や田沢実入クッキーの制作など当会が担当した。
6	3 月	大河津分水の地元商店街の有志で製作したフリーペーパー“BUNSUI”の製作を、ミーティングや素材提供等でサポートした。
7	通年	大河津分水の地元自治体である長岡市寺泊地域が発行する“寺泊支所だより”に、大河津分水の古い資料の紹介が隔月で紹介されることになった。
8	通年	大河津分水の地元自治体である燕市が発行する“広報つばめ”に、大河津分水の歴史や役割、当該市とのエピソード等が毎月で紹介されることになった。

2.3.2. 実施状況

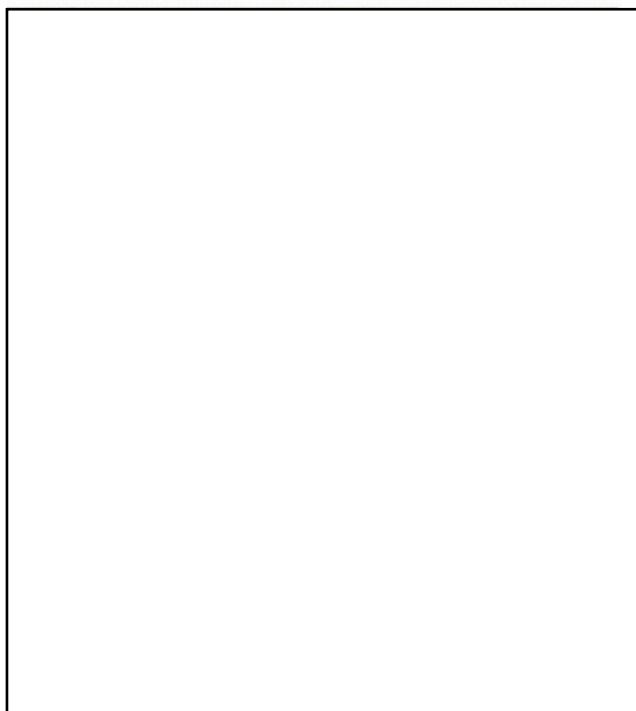
(1) 大河津分水恵み弁当



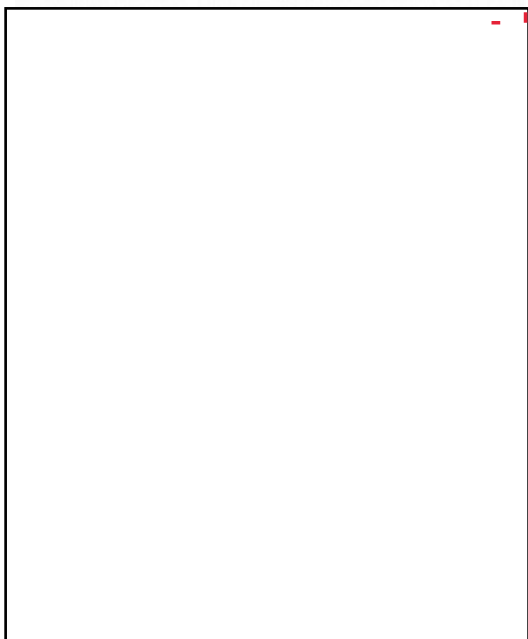
(2) 大河津分水ライブ中継



(3) プレミアムダイニング



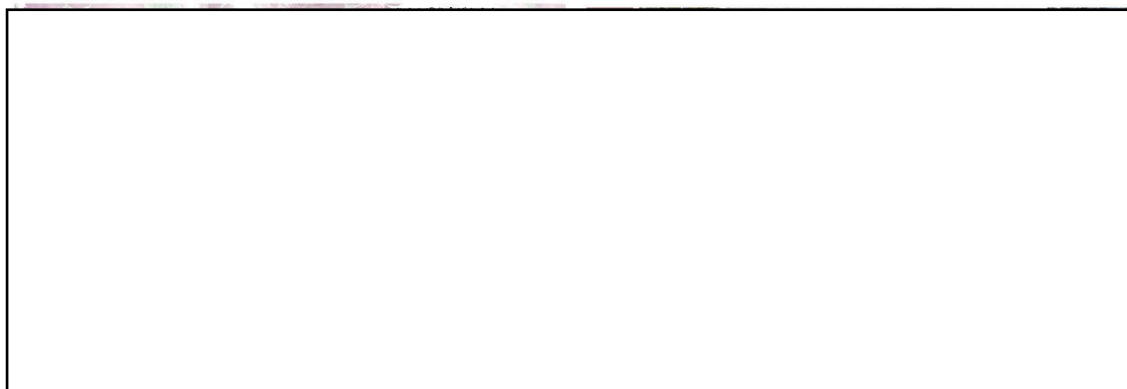
(4) 記念酒ハレトケ



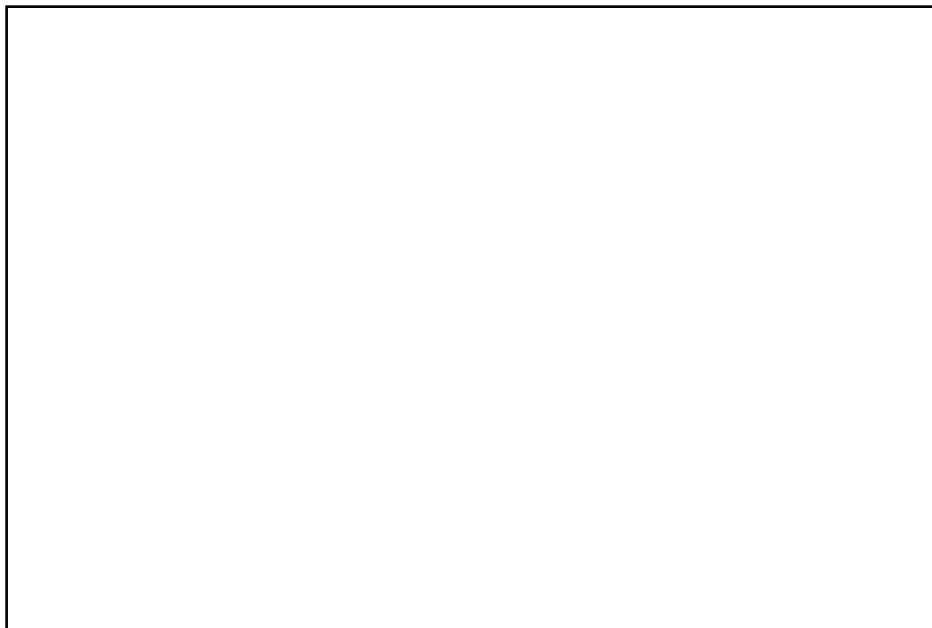
(5) 田沢実入漫画化・石碑建立



(6) フリーペーパーBUNSUI



(7) 寺泊支所だより



(8) 広報つばめ



2.3.3. 活動の成果

- ① 地元企業や自治体との信頼関係の構築が功を奏し、各企業、自治体等において自主的な大河津分水啓発活動に取り組まれることになった。このような関係性の構築は一朝一夕に成り立つものではなく、これまでの継続的な活動の成果の賜物であると言える。
- ② 各企業、自治体の自主的な取り組みのため、当会の労力、資金力の投入を最小限に抑制することができた。また、大河津分水通水 100 周年に向けて大きな足掛かりとすることができた。

2.4. 事業継続検討会

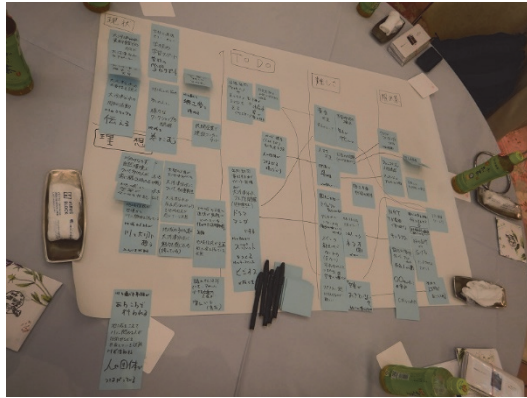
つばめ若者会議、地域団体、新潟経営大学等と3回にわたり事業継続検討会を実施した。

2.4.1. 実績

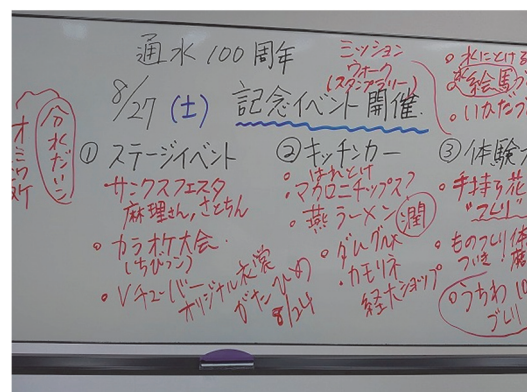
No.	期日等	内容
1	11月16日	つばめ若者会議のメンバーと意見交換し、令和4年度は他組織の主体的な事業を全面的にサポートする方向で同意した。 5名
2	12月8日	地域の旅行関係者と意見交換し、大河津分水を修学旅行の候補先にする上での課題や問題点等を検討した。 40名
3	3月22日	新潟経営大学学生らと令和4年度の事業について意見交換。大河津分水が通水した8月25日に向けてイベントを実施すること、100周年ロゴマークの露出を増やすこと、のぼり旗等を試作することで方針を見出した。 11名

2.4.2. 実施状況

(1) 教育旅行関係者



(2) 新潟経営大学



2.4.3. 活動の成果

- ① 大河津分水通水 100 周年を迎える令和 4 年度において、多組織で大河津分水を発信する取り組みを実践いただける方向性が見えてきた。
- ② 一方で、多組織をサポートする必要性も見えてきた。

2.5. 収益の確保

新潟経営大学との協働により大河津分水のトイカプセルの販売を継続的に実施し、400個、4万円ほどの売り上げを計上することができた。また、他のイベントへの協力金等として、3万円ほどの収益があり、合計で7万円ほどの収入となった。目標の10万円は達成できなかったが、継続的に収益確保を望めるツールを入手できたことは大きい。

(1) 燕三条駅構内へのトイカプセルの設置状況



(2) 道の駅燕三条地場産業振興センターへのトイカプセルの設置状況



2.6. 分水サミット

当初は、大河津分水を学び発表する場としての分水サミットの実現を検討したが、コロナ禍においてサミットは適切でないとの教員の意見を踏まえて、信濃川大河津資料館のガイドや新潟県庁へ的大河津分水啓発ポスターの贈呈、大河津分水遠隔地の学校とのオンライン交流などをサポートした。

2.6.1. 実績

No.	期日等	内容
1	11月30日	大河津分水近隣の長岡市立大河津小学校による信濃川大河津資料館ガイドを実施。複数回にわたる出前授業やガイド練習のサポート、当日の運営等をサポートした。 21名
2	12月6日	大河津分水近隣の燕市立分水小学校による信濃川大河津資料館ガイドを実施。複数回にわたる出前授業やガイド練習のサポート、当日の運営等をサポートした。 69名
3	12月7日	大河津分水近隣の燕市立島上小学校が3m×2mの手作り大河津分水紹介ポスターを新潟県庁や北陸地方整備局に贈呈した。複数回にわたる出前授業やポスター制作のサポート、当日の運営等をサポートした。 13名
4	2月	大河津分水近隣の燕市立分水小学校が大河津分水の最大の受益地域である新潟市内の小学校とオンラインで交流し、自作の大河津分水紹介動画を紹介するなどの大河津分水を伝える活動を行った。運営は小学校教員に一任したが、複数回にわたる出前授業等で学習をサポートした。

2.6.2. 実施状況

(1) 長岡市立大河津小学校の資料館ガイド



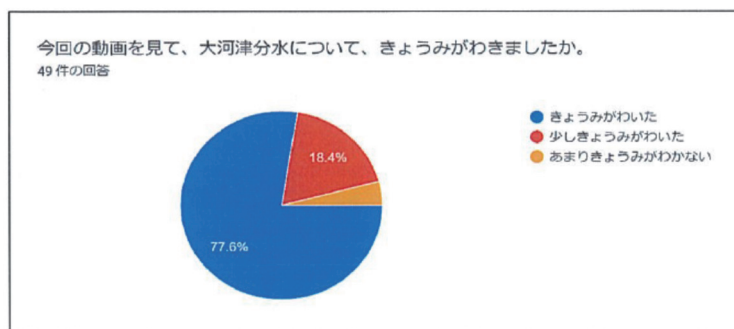
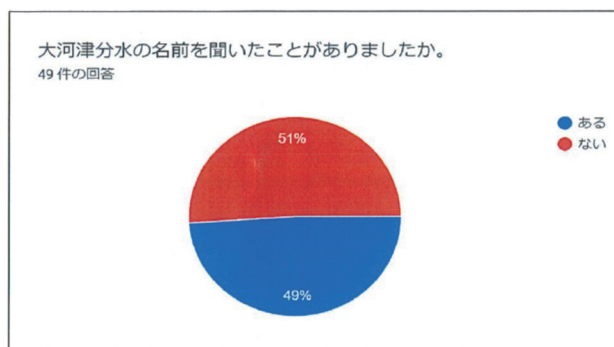
(2) 燕市立分水小学校の資料館ガイド



(3) 燕市立島上小学校の新潟県庁、北陸地方整備局でのポスター贈呈式



(4) 燕市立分水小学校のオンライン交流後のアンケート結果
(相手先の小学校児童の回答結果、分水小学校提供)



2.6.3. 活動の成果

- ① 大河津分水近隣小学校では主体的に大河津分水の発信等に取り組んでいただくことができた。
- ② 対面でのサミット形式は実現できなかったものの、行政庁舎に赴いての大河津分水啓発活動や学校間交流の実現など、分水サミットに一步近づくことができた。

3. まとめ

大河津分水通水 100 周年を祝うような取り組みを多組織の人々から主体的に取り組んでいただくことができた。労力面も費用面も各組織の負担によるところが大きく、大河津分水通水 100 周年への大きな足掛かりとすることができた年であった。このような状況が創出できた背景には多組織との信頼関係の構築がある。これまでの大河津分水に関連する取り組みを通じて、当会の活動や大河津分水の重要性が浸透してきたことが非常に大きい。

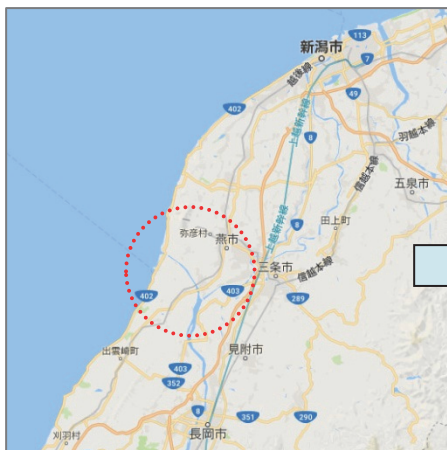
これまで模索してきた分水サミットは、令和 4 年度には国土交通省の正式な事業として信濃川流域の小学校が一堂に会することが決まった。また、大河津分水に感謝するイベントである大河津分水サクスフェスタも地元自治体の燕市の事業として実施することが決定した。これまでの活動の成果が如実に現出した年となった。

このような背景から、大河津分水の啓発を他組織が連携し多組織で実践する中核を当会が担ってきたと自負しているが、その役割は一区切りついた状況にあると判断した。今後は多組織が実践する事業等を労力と知力の部分でサポートすることに取り組む予定である。

様式 1 1

3.川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号		助成事業名		所属・助成事業者氏名	
2021-6111-017		大河津分水通水 100 年 多組織連携プロジェクト		Love River Net 樋口 勲	
主な実施箇所		大河津分水（新潟県燕市・長岡市）			
助成事業の主な実施箇所					
					
河川基金ロゴ等表示状況写真	遠景		近景		
					
延べ参加人数		一般	494 名	スタッフ・事務局	20 名
マスコミの反響		新聞・TV 等の取材多数あり。			